

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-19066

(43)公開日 平成6年(1994)3月11日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 7 D 9/00	4 1 8 Z	8513-3E		
A 6 3 F 7/02	3 5 2 J	8804-2C		
9/00	5 1 2	8603-2C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号	実開平4-56010	(71)出願人	000128465 株式会社オーイズミ 神奈川県伊勢原市鈴川7番地
(22)出願日	平成4年(1992)8月10日	(72)考案者	水野 直樹 神奈川県伊勢原市鈴川7番地 株式会社オーイズミ内
		(72)考案者	尾崎 俊明 神奈川県伊勢原市鈴川7番地 株式会社オーイズミ内
		(72)考案者	萩原 常光 神奈川県伊勢原市鈴川7番地 株式会社オーイズミ内
		(74)代理人	弁理士 尾設 行雄

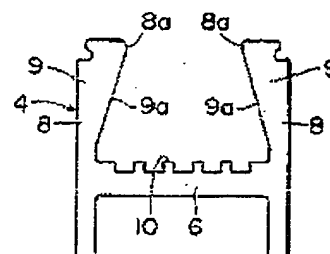
最終頁に続く

(54)【考案の名称】 硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レール

(57)【要約】

【目的】 硬貨の回収残りを招かない硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レールを提供する。

【構成】 台間玉貨機の背部に配置する硬貨回収コンベヤにおいて、中央に平ベルトを敷設する硬貨回収コンベヤの全体としてH形枠状を呈する硬貨回収レール4を、平ベルトの両側に立ち上がるコンベヤ溝となる両側壁部8を上端を内側に傾けた仰角壁部9とし、立ってしまった落下の硬貨を強制的に内側に傾倒し停滞のない搬送をする。



(2)

実開平6-19066

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 パチンコ台等の間に介在する台間玉貸機の背部に配設した硬貨回収コンベヤにおいて、この中央に平ベルトを敷設する硬貨回収コンベヤの全体としてH形性状を呈する硬貨回収レールを、平ベルトの両側に立ち上がるコンベヤ溝となる両側壁部を上端が互いに内側に傾くよう仰角壁部構造としてなる硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レール。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案の実施例を示す硬貨回収レールの正面図である。

【図2】 同硬貨回収レールを用いた硬貨回収コンベヤの断面図である。

2

\* 【図3】 同斜視図である。

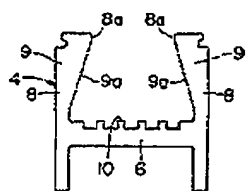
【図4】 パチンコ台、台間玉貸機を配設の装置の態様状態の説明図である。

【図5】 従来の硬貨回収レールの正面図である。

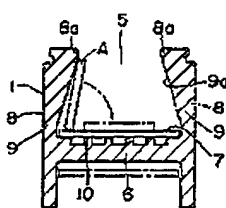
【符号の説明】

- 1 硬貨回収コンベヤ
- 2 パチンコ台
- 3 台間玉貸機
- 4 硬貨回収レール
- 5 コンベヤ溝
- 7 平ベルト
- 8 側壁部
- 9 仰角壁部

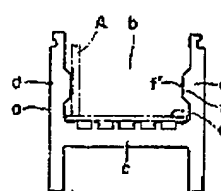
【図1】



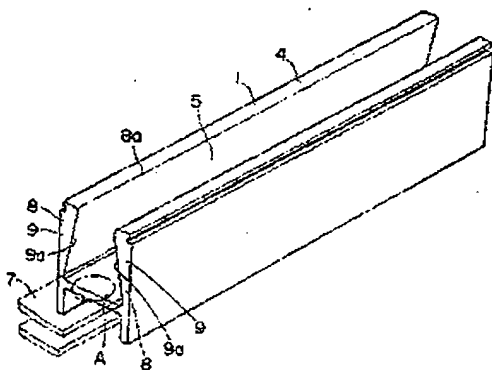
【図2】



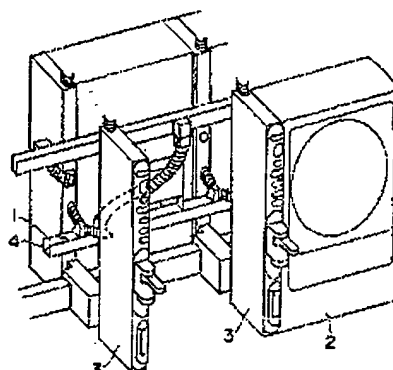
【図5】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)考案者 亀井 雄一郎

神奈川県伊勢原市鈴川7番地 株式会社オーイズミ内

(3)

実開平6-19066

## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

この考案は島式配列等の如き多数のパチンコ台間に介在の台間玉貸機（所謂玉サンド）から硬貨回収をする硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レールに関するものである。

【0002】

## 【従来の技術】

一般に、遊戯場にあつて島式配列のパチンコ台間に設置する台間玉貸機から排出する硬貨を回収する硬貨回収コンベヤは、H形棒状の硬貨回収レールと該レール底に敷設する平ベルトとより構成してなる。この場合、従来この種の硬貨回収レールaは、コンベヤ溝bの形状をベルト敷設底部cの両側に側壁部dを単に直角立ち上げとし断面を上方開口のコ字形構造としてなるものである（図5参照）。

【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

しかし、上記のように硬貨回収レールaの両側壁部dが直角折りの壁面構成では、台間玉貸機からコンベヤ溝bへ垂直落下する硬貨Aが平ベルトe面に対して倒れ、偏平状態となって搬送されとは限らない。即ち、コンベヤ溝bへ垂直状態（立て状態）で落下する硬貨Aは、立ったまま側壁部dに接触することが多々起こる。この様に、硬貨Aが立て状態で平ベルトeに載った場合、該平ベルトeの回転に伴つて硬貨Aが転動し移送されることもあるが、硬貨Aの片面を側壁部dに接触した状態では、この硬貨Aが側壁部d間に生ずる摩擦に起因してベルトの回転に対し逆回転が生じ、実質的に所定位置に停滞する（動かない）虞れがあり、回収されにくい。このことは、特に閉店時における硬貨の回収に当たって、レール内に硬貨が残ってしまい、硬貨の集計が合わない場合がある。

【0004】

なお、図5に示すような従来タイプの硬貨回収レールaにあつても、両側壁部dの内側に立ち防止用凸部fを突設形成したものもあるが、該凸部fの凸面f'

(4)

実開平6-19066

はあくまで平ベルト e に対し鉛直線上の位置とした起立壁面構造を呈するだけであるため、この凸部 f に接する垂直落下の硬貨 A は立った状態が崩れず、確実に平ベルト e に倒れるとは限らない欠陥を有する。

## 【0005】

本考案は上記実情に鑑み、コ字状を呈すコンベヤ溝の両側壁部を互いに内側に傾く仰角壁部とすることで、上記課題を解決する硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レールを提供することを目的としたものである。

## 【0006】

## 【課題を解決するための手段】

本考案は、パチンコ台等の間に介在する台間玉貸機の背部に配置した硬貨回収コンベヤにおいて、この中央に平ベルトを敷設する硬貨回収コンベヤの全体として H 形枠状を呈する硬貨回収レールを、平ベルトの両側に立ち上がるコンベヤ溝となる両側壁部を上端が互いに内側に傾くよう仰角壁部構造としてなるものである。

## 【0007】

## 【作用】

上記のように、硬貨回収コンベヤのコンベヤ溝を構成する硬貨回収レールの両側壁部を内側へ傾く仰角壁部構造としてなるため、このコンベヤ溝に台間玉貸機側から縦状に排出落下する硬貨は、コンベヤ溝となる側壁部に寄り掛かろうとしても、該側壁部が内側へ傾く仰角壁部なので内側へ移動に伴ない強制的に倒れるものとなり、溝底に走行する平ベルトに水平載置となる。従って、この硬貨回収コンベヤに排出された硬貨は停滞することなく確実に末端まで搬送されるものとなる。

## 【0008】

## 【実施例】

以下、本考案を実施例の図面に基づいて説明すれば、次の通りである。

## 【0009】

図面は鳥式配列の複数台のパチンコ台間に夫々介在する台間玉貸機に対応する硬貨回収コンベヤを示し、1 はパチンコ台 2 間に介在する台間玉貸機 3 の背部に

(5)

実開平6-19066

架設した硬貨回収コンベヤで、該硬貨回収コンベヤ1は全体としてH形枠状を呈する硬貨回収レール4と、このコンベヤ溝5の溝底部に敷設する平ベルト7より構成してなる。この場合、硬貨回収レール4の構造は、平ベルト7の両側に立ち上がる両側壁部8、8を、対向する上端8a、8aが、溝幅が決まるように互いに内側に所定角度を傾けた傾斜面9a、9aをもつ仰角壁部9、9に形成している。10は硬貨回収レール4の溝底枠部6の長手方向表面に形成した滑動用凹凸部を示す。

## 【0010】

いまこの作用を説明すると、先ずこの台間玉貨機3の背部に設けた排出口（図示せず）から繰出された硬貨Aは、普通硬貨回収レール4の上方を開口したコンベヤ溝5に縦状となって落下されるものである。この場合、コンベヤ溝5の溝底部に回転している平ベルト7に直接接衝して倒れ、該平ベルト7上に平行となって搬送されるものもあるが、中には硬貨Aは縦状落下位置が片寄り、該硬貨Aの下端が平ベルト7に達していても上方部が側壁部8に接し立ち姿勢を保つこともある。

## 【0011】

この様に、硬貨回収コンベヤ1に向け縦状落下した硬貨Aの上部が硬貨回収レール4の側壁部8に接触し立ち姿勢となっても、該側壁部8の形状が内側に傾く仰角壁部9となってるため、立ち姿勢の硬貨Aは下部の平ベルト7の移動に伴う回転時に仰角壁部9の傾斜にて強制的に内側へ倒される結果となり、コンベヤ溝5の溝底部の平ベルト7上に水平（横姿勢）となって載置され、該平ベルト7の回転速度に応じた搬送ができる。このことは、閉店時にあって台間玉貨機3の硬貨Aの回収に当たって硬貨回収コンベヤ1上に硬貨Aの残りを招かない。

## 【0012】

## 【考案の効果】

上述の様に、本考案の硬貨回収コンベヤにおける硬貨回収レールは両側壁部を内側に傾く傾斜面をもった仰角壁部としてなるため、硬貨回収コンベヤに落下した硬貨が側壁部に接し立ち姿勢となって、硬貨が平ベルトの前進回転の抗して逆回転しようとしても仰角壁部にて強制的に内側へ倒され平ベルトに水平載置され

(5)

英開平6-19066

るので、レール（硬貨回収コンベヤ）内に硬貨が残ってしまうことがなく、硬貨の集計に支障を来たさない。しかも、本考案は従来のレールにあっての側壁部の改良だけで済むため、製作が容易で、平ベルト等の敷設等の取扱いも面倒でない等の効果を有する。